二〇一四年三月二二日

竹林の小径のここだ落椿　せいじ

自転車のドミノ倒しや春疾風　満天

讃美歌の洩るるチャペルに風光る　宏虎

モノレール大き車窓に春日燦　なつき

二〇一四年三月二〇日

強東風に翻弄さるる五色幕　満天

河原石動くと見れば春の鴨　なつき

春しぐれ甘味処の椅子に猫　つくし

二〇一四年三月一九日

通勤の車窓の街も黄塵裡　ひかり

春の川観音像に奏でけり　菜々

梅の谷梅の丘へとリュック負ひ　なつき

二〇一四年三月一八日

胸高に袴きりりと卒業す　菜々

戦没者慰霊の塔や梅白し　はく子

春風に潮入川の匂ひけり　つくし

かはたれの谷戸に谺す雉のこゑ　雅流

二〇一四年三月一七日

園児らに道を譲りぬ踏青子　あさこ

椎茸の種駒を打つ春風裡　三刀

林立す力士のぼりに風光る　こすもす

料亭の膳にひとひらライラック　満天

満水のダム湖へなだれ木の芽山　雅流

二〇一四年三月一六日

制服がはち切れさうや卒業子　満天

二〇一四年三月一五日

菜種梅雨春日の杜の苔ふかし　はく子

みくさ生ふ池の深さを思ひけり　よし子

久闊を叙してもの芽に対しけり　うつぎ

毎日句会みのる選・二〇一四年三月二三日